

## ★ QoI剤耐性イネいもち病菌の発生について ★

府内の一部地域でストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI剤）耐性イネいもち病菌の発生が初めて確認されました。次年度の防除対策については下記のことを参考にしてください。

作物名 水稻

病虫害名 いもち病

発生状況

- (1) 本年度、中丹地域でQoI剤（オリサストロビン剤）を育苗箱処理した一部のほ場でいもち病が多発した。
- (2) 当該ほ場から採取したいもち病菌について、京都府病虫害防除所が薬剤添加培地での検定を実施した結果、オリサストロビンに対する感受性の低下が確認された(図1)。また、その他のQoI剤（アゾキシストロビン及びメトミノストロビン）でも感受性の低下が確認された（図1）。このいもち病菌について、農薬メーカーに遺伝子検定を依頼した結果、QoI剤の感受性低下に関する遺伝子の変異が確認された。これらの結果から、府内におけるQoI剤耐性菌の発生が初めて確認された。
- (3) 全農京都府本部の協力を得て、巡回調査でいもち病の発生が確認されなかった丹後地域を除く、府内各地のほ場からいもち病罹病葉を採取し、農薬メーカーにいもち病菌の遺伝子検定を依頼した。その結果、QoI剤の感受性低下に関する遺伝子の変異が中丹地域の一部で確認された。一方、その他の地域（南丹、山城地域）では遺伝子の変異は確認されなかった。

次年度の防除対策

- (1) 耐性菌の発生地域では次年度はいもち病に対するQoI剤（表1）の使用を中止し、他系統の薬剤（表2、3）を使用する。  
発生地域以外でもQoI剤耐性菌の発生が懸念されるので、他系統の薬剤の使用が望ましい。
- (2) 種子流通に伴い耐性菌が広範囲に伝播することがあるため、採種ほ場及びその周辺ほ場ではQoI剤は使用しない。
- (3) 種子による伝播を防ぐため、耕種的防除（健全種子の購入、塩水選、種子消毒（薬剤消毒が望ましい））を徹底する。

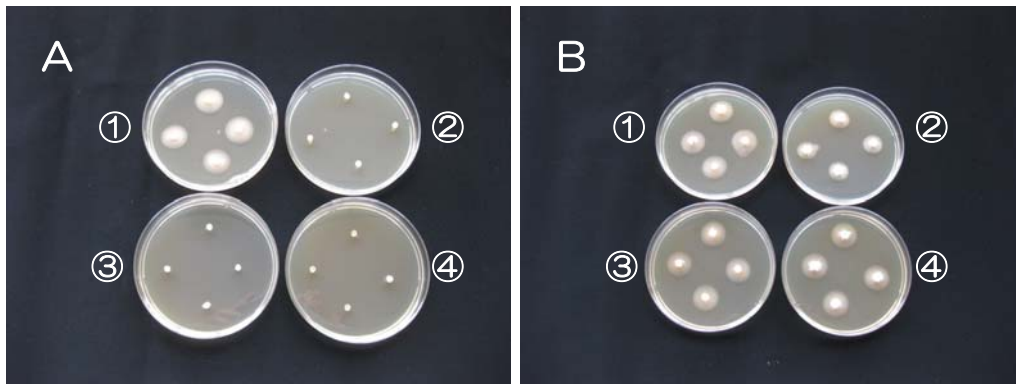


図1 いもち病菌のQoI剤添加培地による感受性検定結果（病害虫防除所調査）

A：感受性菌株、B：耐性菌株、①：QoI剤無添加、②：アゾキシストロビン10ppm、③：メトミノストロビン10ppm、④：オリサストロビン10ppm  
 感受性菌株はQoI剤により生育が抑制される（A②③④）が、耐性菌株は抑制されない（B②③④）

表1 ストロビルリン系有効成分を含む主な薬剤（QoI剤）

有効成分名	農薬（商品）名
メトミノストロビン	オリブライト1キロ粒剤、オリブライト250G イモチエース粒剤、イモチエース1キロ粒剤10
オリサストロビン	嵐キラップ粒剤、嵐スタークル粒剤、 嵐ダントツ箱粒剤、嵐プリンス箱粒剤10
アゾキシストロビン	アミスターエイト、アミスタートレボンSE アミスタープリンス粒剤

表2 ストロビルリン系殺菌剤(QoI剤)を除くいもち病に対する主な薬剤(育苗箱施用剤)

系統名	有効成分名	農薬（商品）名
抵抗性誘導剤	イソチアニル	ルーチンアドマイヤー箱粒剤、スタウトダントツ箱粒剤
	チアジニル	ブイゲットアドマイヤー粒剤、 ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤
	プロベナゾール	Dr. オリゼプリンス粒剤10、Dr. オリゼフェルテラ粒剤、 Dr. オリゼスタークル箱粒剤、 ファーストオリゼプリンス粒剤10
MBI-R	トリシクラゾール	パダンビーム粒剤
	ピロキロン	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、 デジタルメガフレア箱粒剤
その他	イソプロチオラン	フジワンプリンス粒剤

表3 ストロビルリン系殺菌剤(QoI剤)を除くいもち病に対する主な薬剤(本田施用剤)

系統名	有効成分名	農薬（商品）名
抵抗性誘導剤	プロベナゾール	オリゼメート粒剤、オリゼメート1キロ粒剤、 オリゼメートパック
MBI-R	トリシクラゾール	ビーム粒剤DL、ビームゾル
	ピロキロン	コラトップ粒剤5、コラトップ1キロ粒剤12、 コラトップジャンボ
MBI-R・その他	フサライド・ フェリムゾン	ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブル
抗生物質	カスガマイシン	カスミン液剤
抗生物質・MBI-R	カスガマイシン・ フサライド	カスラブサイド粉剤DL